
 賛助会員

北海道栽培漁業振興公社 (060 札幌市中央区北 3 条西 7 丁目 北海道第二水産ビル 4 階)

阿寒観光汽船 株式会社 (085-04 北海道阿寒郡阿寒町字阿寒湖畔)

株式会社 シロク (260-0033 千葉市春日 1-12-9-103)

全国海苔貝類漁業協同組合連合会 (108-0074 東京都港区高輪 2-16-5)

有限会社 浜野顕微鏡 (113-0033 東京都文京区本郷 5-25-18)

株式会社 ヤクルト本社研究所 (186-8650 東京都国立市谷保 1769)

神協産業 株式会社 (742-1502 山口県熊毛郡田布施町波野 962-1)

理研食品 株式会社 (985-8540 宮城県多賀城市宮内 2 丁目 5 番 60 号)

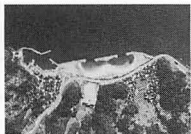
株式会社 白寿保健科学研究所 (173-0014 板橋区大山東町 32-17)

三洋テクノマリン株式会社 (103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1 丁目 3-17)

マイクロアルジェコーポレーション (MAC) (104-0061 東京都中央区銀座 2-6-5)

(有) 裕千堂葛西 (038-3662 青森県北津軽郡板柳町大字板柳字土井 38-10)

株式会社 ナボカルコスメティックス (151-0051 渋谷区千駄ヶ谷 5-29-7)


表紙写真

今回の表紙には本号に掲載されている記事で使われている写真を使わせていただいた。左下の *Microcystis* の写真は、本号に Asian Network on Microbial Researches: Physiological Potency, Toxicology, Diversity, Systematics and Culture Collection of Microalgae というシンポジウムのプロシーディングスが掲載されていることにちなんで載せた。

左上：藤田大介氏 「採集地案内」 より

右：筒井 功氏 「海外藻類事情」 より

左下：渡邊 信氏 (Algal PhotoCD より)

日本藻類学会（入会申込・住所変更届）（○で囲んで下さい）

（コピーしてお使い下さい）

199 年度より入会 19 年 月 日 申込み

氏名 _____

★ Name _____

(Family name)

(Given name)

所属機関名 _____

★ Institution _____

住所 〒 _____

★ Institutional Address _____

電話 _____ Fax _____ e-mail _____

自宅住所 〒 _____

★ Address _____

電話 _____ Fax _____ e-mail _____

★の項目は英語またはローマ字で必ずご記入ください。英文誌の送付に必要です。

以下の欄にチェックして下さい

会員の種類： 普通会員 7,000円 学生会員 5,000円（学生会員の場合、指導教官の署名が必要です）

指導教官の署名： _____

会費納入方法： 同封 郵便振替（できるだけ郵便振替をご利用下さい）

会誌の送り先 所属機関（勤務先） 自宅

入会申込書・住所変更届 送付先：〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

島根大学教育学部生物

大谷修司 TEL 0852-32-6306 (FAX 兼用)

e-mail: ohtanish@edu.shimane-u.ac.jp

会費払込先：郵便振替 口座番号 01320-4-48748 加入者名：日本藻類学会

学会事務局
使用欄

受付

名簿

発送リスト

入金確認

学会録事

多彩な執筆陣による多角的な構成！
生態から利用までを網羅した、初の海藻読本！

緑水産学叢書
第2弾！

21世紀の海藻資源

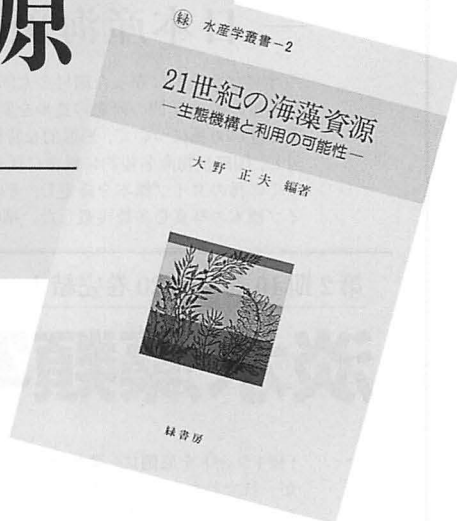
—生態機構と利用の可能性—

大野正夫 編著

●A 5判 280頁 ●定価：本体3,689円(税別)

「豊かな海」の立役者であるばかりでなく、次世代の素材として、いま産業界の最も熱い注目を集める海藻資源。健康、環境への関心の高まる中、「海藻についての一般書を」との声に応え、遂に初の海藻読本が登場！

生態、環境、健康、化学、工学、医療等の研究者が最新研究成果を分かりやすく解説。今まであまり光の当たらなかった多方面にわたる海藻の利用法を探る。海藻生産者、漁場造成・水圏環境保全関係者、応用化学・食品メーカー必読の書！



内容

藻場(寺脇利信)／流れ藻と寄り藻(新井章吾)／磯焼け(藤田大介)／国際化する海藻資源(大野正夫)／海藻と健康・栄養(辻 啓介)／伝統的食品の寒天と新しい素材のカラギナン(平瀬 進・大野正夫)／海藻パルプとアルギン酸繊維の“紙”(小林良生)／カンキツ類の生産と海藻資源(白石雅也)／飼料に利用される海藻(中川平介)／磯の香りと性フェロモン(梶原忠彦)／海藻から抽出されるレクチン—細胞を見分けるたんぱく質—(堀 貫治)／海藻から抗酸化性物質の生産(浪岡日左雄・松家伸吾)／海藻から抗菌性成分の探索(越智雅光)／海藻からの抗癌活性物質(山本一郎・丸山弘子)

図鑑 海藻の生態と藻礁

徳田 廣・川嶋昭二・大野正夫・小河久朗 編

●B 5判 198頁 ●定価：本体14,369円(税別)

本書は、天然の海で海藻がどのような姿で生えているのかをつぶさに見てとることの出来る海藻生態図鑑であると同時に、人為的に投入した藻礁に如何にして海藻を生やすか、を紹介した世界に例のない図鑑でもある。藻場造成にかかわる方々はもちろんのこと、海洋環境の保全に意欲と関心をお持ちの一般の方々にも、本書は幅広く受け入れられるであろう。

英文版も
完成！

—A Photographic Guide—
Seaweeds of Japan

●定価：本体14,563円(税別)

海藻資源養殖学

徳田 廣・大野正夫・小河久朗 編

●B 5判 354頁 ●定価：本体5,505円(税別)

海藻の資源や養殖から、藻場造成、利用法、海外での養殖等に至るまで、実に幅広い観点から初めて総括的に海藻を論じた、研究者・学生・養殖業者待望の書！！

内容

地球生態系と海藻／海藻の生育環境／海藻の利用／世界の海藻資源と生産量／現在の海藻養殖／藻場造成／海外の海藻養殖の現状／海藻養殖の将来と展望／むすび

■消費税は別途加算されます。

緑書房

〒171 東京都豊島区池袋2-14-4 池袋西口スカイビル8F
TEL 03(3590)4441(販売部) FAX 03(3590)4446

「日本海藻誌」以来60余年ぶりの大著

新日本海藻誌

— 日本産海藻類総覧 —

吉田 忠生 著

B5判・総頁1248頁・本体価格46000円

本書は古典的になった岡村金太郎の歴史的大著「日本海藻誌」(1936)を全面的に書き直したものである。「日本海藻誌」刊行以後の約60年間の研究の進歩を要約し、1997年までの知見を盛り込んで、日本産として報告のある海藻(緑藻、褐藻、紅藻)約1400種について、形態的な特徴を現代の言葉で記載する。編集にあたっては、各種の学名を原典にさかのぼって検討し、国際植物命名規約に厳密に従って命名法上の正確さを期し、関連する文献を詳しく引用。また、命名規約に基づいて、多くの種のタイプ標本を確定し、その所在を明らかにするとともに、北海道大学、国立科学博物館などに所蔵されているタイプ標本の写真を多数掲載した。植物学・水産学の専門家のみならず、広く関係各方面に必携の書。

第2期10巻、全20巻完結!

淡水藻類写真集

1巻
~20巻

山岸 高旺・秋山 優 編集

各巻 B5判・216頁・100シート

1・2巻4000円、3~10巻5000円、11~20巻7000円

1種1シートを原則に、藻体像の顕微鏡写真・部分拡大写真に、走査型電顕写真・線画き詳細図を添えて、分類学的形質が一目でわかるように構成する。解説はすべて和英両文。種名と文献、藻体の性状と寸法、成育状況、細胞の構造、生殖法、生活史、生態分布、類似種との比較等を併記。

淡水藻類写真集ガイドブック

山岸高旺 著

B5判・144頁・本体価格3800円

多種多様な淡水藻類の全容を、「淡水藻類写真集」をもとに簡潔かつ利用しやすい形にまとめる。

近刊

淡水藻類入門 — 観察・研究 — (仮題)

山岸高旺 編著

「日本淡水藻図鑑」の編者である著者がまとめる、初心者・入門者のための書。多種多様な藻類群を、平易な言葉で誰にも分かるようよう、丁寧に解説する。I編、II編で形質と分類の概説を行い、III編では各分野の専門家による具体的事例20編をあげ、実際にどのように観察・研究を進めたらよいかを理解できるように構成する。

I 淡水藻類の形質 / II 淡水藻類の種類 / III 淡水藻類の観察と研究

藻類の生活史集成

堀 輝三 編

藻類多様性の生物学

千原光雄 編著

B5・400p・9000円

第1巻 緑色藻類 B5・448p (185種) 8000円

第2巻 褐藻・紅藻類 B5・424p (171種) 8000円

第3巻 単細胞性・鞭毛藻類 B5・400p (146種) 7000円

藻類の今を見渡し、理解するための最速の書。斯界の第一人者により、藻学および周辺領域の膨大な知識の蓄積が整理され、新しい研究成果も取り入れられている。藻学を学ぶ方、またこの分野に興味のある方の新たなスタンダード。

陸上植物の起源

渡邊 信 共訳
堀 輝三

— 緑藻から緑色植物へ —

A5・376p・4800円

最初に海で生まれた現生植物の祖先は、どのような進化をたどって陸上に進出したのか——。分子生物学、生化学、発生学、形態学などの成果にもとづく探求の書。海藻のような海産藻類からでなく、淡水域に生息した緑藻、特にシャジクモ類から派生したという推論をたて、陸上植物の出現した約五億年前の地球環境、DNAの構造、シャジクモ類の形態・生態・生理などを総合的に考察する。

日本の赤潮生物

福代・高野 共編
千原・松岡

— 写真と解説 —

B5・430p・13000円

日本近海および日本の淡水域に出現する200種の赤潮生物を収録。赤潮生物の分類・同定に有効な一冊。

原生生物の世界

丸山 晃 著
丸山雪江 絵

細菌、藻類、菌類と原生動物の分類 B5・440p・28000円

原生生物、すなわち細菌、藻類、菌類と原生動物の分類という壮大な世界を緻密な点描画とともに一巻に収めた類例のない書。

日本淡水藻図鑑

廣瀬弘幸・山岸高旺 編集

B5・960p・38000円

図鑑としての特性を最高度に発揮すす為に図版は必ず左頁に、図版の説明は必ず右頁に組まれ、常に図と説明とが同時にみられるように工夫。また随所に総括的な解説や検索表を配し読者の便宜を図る。

藻類の生態

秋山・有賀 共編
坂本・横浜

A5・640p・12800円

日本海藻誌

岡村金太郎 著 B5・1000p・30000円

表示の価格は本体価格ですので、別途消費税が加算されます。

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-34-3 内田老鶴園
TEL 03-3945-6781 FAX 03-3945-6782

学 会 出 版 物

下記の出版物をご希望の方に頒布いたしますので、学会事務局までお申し込み下さい。(価格は送料を含む)

1. 「藻類」バックナンバー 価格、会員各号 1,750 円、非会員 3,000 円、30 巻号 (創立 30 周年記念増大号、1-30 巻索引付き) のみ会員 5,000 円、非会員 7,000 円、欠号 1-2 巻、4 巻 1, 3 号、5 巻 1, 2 号、6-9 巻全号。
「藻類」バックナンバーの特別セット販売に関しては本誌記事をご覧ください。
2. 「藻類」索引 1-10 巻、価格 会員 1,500 円、非会員 2,000 円、11-20 巻、会員 2,000 円、非会員 3,000 円、創立 30 周年記念「藻類」索引、1-30 巻、会員 3,000 円、非会員 4,000 円。
3. 山田幸男先生追悼号 藻類 25 巻増補。1977. A5 版, xxviii+418 頁。山田先生の遺影、経歴・業績一覧・追悼文及び内外の藻類学者より寄稿された論文 50 編 (英文 26, 和文 24) を掲載、価格 7,000 円。
4. 日米科学セミナー記録 Contributions to the systematics of the benthic marine algae of the North Pacific. I. A. Abbott・黒木宗尚共編。1972. B5 版. xiv+280 頁, 6 図版。昭和 46 年 8 月に札幌で行われた北太平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録で、20 編の研究報告 (英文) を掲載。価格 4,000 円。
5. 北海道周辺のコンブ類と最近の増養殖学的研究 1977. B5 版, 65 頁。昭和 49 年 9 月に札幌で行われた日本藻類学会主催「コンブに関する講演会」の記録。4 論文と討論の要旨。価格 1,000 円。

1998 年 11 月 5 日印刷

1998 年 11 月 10 日発行

© 1998 Japanese Society of Phycology
日 本 藻 類 学 会

禁 転 載
不 許 複 製

Printed by Hokudai Insatsu

編集兼発行者

堀 口 健 雄

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学大学院理学研究科
Tel. 011-706-2738
Fax. 011-746-1512
email. horig@sci.hokudai.ac.jp

印刷所

北 大 印 刷

〒060-0810 札幌市北区北 8 条西 7 丁目
Tel. 011-747-8886
Fax. 011-747-8807

発行所

日 本 藻 類 学 会
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
東京学芸大学生物学教室内
Tel. 0423-29-7524 (Fax 兼用)

藻類

The Japanese Journal of Phycology (Sôruï)

第46巻 第3号 1998年11月10日

目次

日本藻類学会第23回大会(山形)案内	
平岡雅規・大野正夫・川口栄男: 博多湾に生育するアオサ2型の生殖的隔離について	161
矢部和夫・牧野 愛・鈴木 稔: 海洋生物におよぼす紫外線の影響 その4. ダルスが放出した紫外線吸収物質	167
秋季シンポジウム「海産植物資源の活用—現状と展望—」	
笠原文善: アルギン酸の利用と産業の国際的展望	173
井上 修: 寒天の開発と市場動向	179
岩元勝昭: カラギーナンの市場の変遷と最近の動向	185
島松秀典: 微細藻類からの有用資源開発	189
角谷 清: 海外の海藻資源の開拓と日本での利用	193
藻類採集地案内	
藤田大介: 富山湾	199
海外藻類事情	
筒井 功: ミクロネシア連邦コスラエ島—人々の暮らし, 藻場の消長—	203
博物館と藻類	
川嶋昭二: コンブの生涯学習の場を目指して—えりも町郷土資料館・水産の館の場—	209
北山太樹: 社会教育としての海藻観察会—国立科学博物館の場合—	211
川井浩史: The Flagellates Symposium 参加報告	212
英文誌 Phycological Research 46巻2号掲載論文和文要旨	215
英文誌 Phycological Research 46巻2号サブリメント掲載論文和文要旨	217
書評・新刊紹介	
千原光雄: 新日本海藻誌(吉田忠生著)	222
千原光雄: 淡水藻類写真集 第20巻(山岸高旺・秋山 優編)	223
千原光雄: 淡水藻類写真集ガイドブック(山岸高旺著)	224
堀 輝三: 千葉県其自然誌(千葉県史料研究財団編)	225
阿部剛史: 磯焼けを海中林へ—岩礁生態系の世界—(谷口和也著)	226
真山茂樹: "Phycological Research" 新学名登録のための認定雑誌となる	227
学会・シンポジウム情報	227
会員のページ・学会録事	228